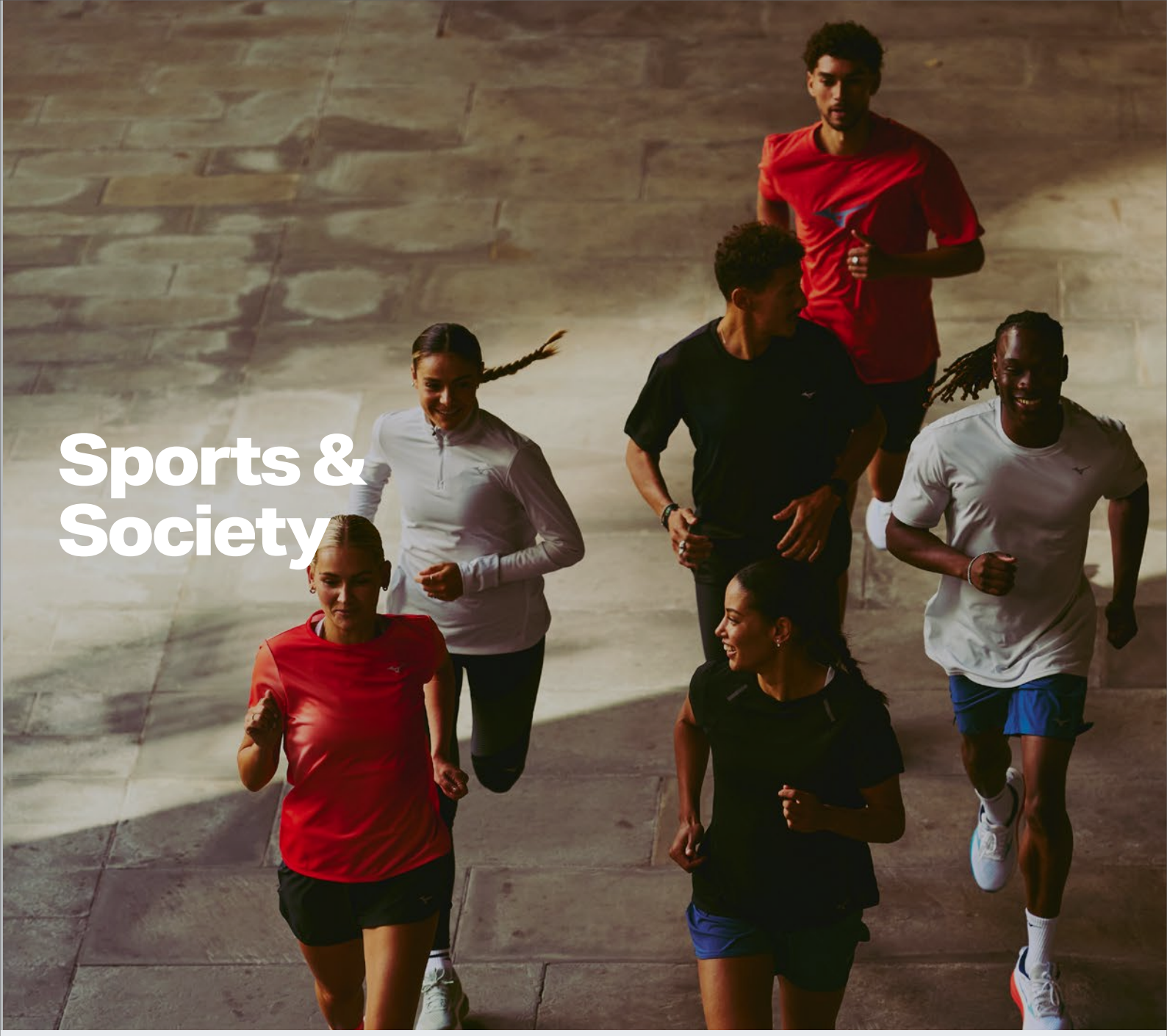


Sports & Society

方針と体制 101
スポーツの持つ多面的な価値への貢献 102
スポーツを通じた心身の健康 104
ミズノらしさ・総合力の発揮 108
社会課題解決への貢献 113
スポーツの振興と教育 115
ミズノの技術を応用したサステナビリティ課題への貢献 120

方針と体制

マネジメント方針

スポーツには、心身の健康の維持とともに、国や世代を超えたコミュニケーションを生み出す力、人や地域の可能性を引き出す大きな力があります。ミズノは、経営理念「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」に基づき、スポーツの振興を通じて、より多くの人々にスポーツへのアクセスを提供し、一人ひとりが輝けるより豊かでサステナブルな社会の実現に貢献していきます。
当社が取り組んできた「スポーツの振興」とは、一人でも多くの人々にスポーツの楽しさを届け、「フェアプレー」「フレンドシップ」「ファイティング・スピリット」というスポーツの宿す精神を体験してもらうこと、また、社会が直面する課題に対し、スポーツの持つ可能性を最大限に生かしたソリューションを関係機関と協力して提供することと考えています。

また、2020年に策定した「SDGs推進指針」、および「ミズノ倫理規範」の「1. 社会への貢献」に基づき、スポーツの定義を競技シーンだけでなく、日常生活シーンにおける身体活動にも拡大し、スポーツの力で社会課題を解決する新たなSDGs 貢献型ビジネスの創出も目指していきます。

「SDGs推進指針」「ミズノ倫理規範」

マネジメント体制

ミズノは、人事総務担当の執行役員が委員長を務める「サステナビリティ推進委員会（社内名：MIZUNO CREW 21 本委員会）」を設置しています。グローバルで取り組む主要なサステナビリティ活動の方向性は本委員会で議論され、その活動内容は関係者に共有されています。

サステナビリティ推進委員会（社内名：MIZUNO CREW 21本委員会）

また、取締役副社長がリーダーを務める「プロダクト横断企画開発委員会」では、研究開発部門をはじめ、アパレル、フットウエア、イクイップメントの各プロダクト部門の代表者が集まり、定期的な会合を実施し、R&Dに関する展望、今後の方針、具体的な計画づくりなど、持続可能な未来の実現に向けて活動しています。

プロダクト横断企画開発委員会

スポーツの持つ多面的な価値への貢献

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

指標	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	所管部門
• 健康維持・増進につながる製品・サービスの利用者総数（延べ人数）	3,400万人	3,360万人	3,400万人	スポーツ施設部
• スポーツ用品体験会やスポーツイベントの実施（回数） スポーツに触れる機会の創出	240回	247回	250回	アスレチック事業部

重要課題

- スポーツを通じた心身の健康
- ミズノらしさ・総合力の発揮

なぜ重要か（重要性の理由）

スポーツが提供できる価値は多種多様であり、人々がより豊かに、健康かつ快適な生活を送るために重要な役割を担っています。ミズノは、一人でも多くの人々にスポーツの楽しさを届け、「フェアプレー」「フレンドシップ」「ファイティング・スピリット」というスポーツの宿す精神を体験してもらうこと、また、社会が直面する課題に対し、スポーツの持つ可能性を最大限に生かしたソリューションを関係機関と協力して提供することが重要と考えています。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

国内の人口減少に伴うスポーツ競技者人口の減少や国内スポーツ市場の鈍化はリスクと認識しています。
ミズノは、当社グループが持つスポーツに関する理解やノウハウ、技術、ネットワークなどを生かすことでスポーツの力を最大限に引き出し、その価値を世界中のより多くの人々に提供できるように今後もグローバルでの事業拡大を目指していきます。

■ リスク

- スポーツ競技者人口の減少
- 国内スポーツ市場の成長鈍化

■ 機会

- スポーツに関するノウハウ・技術・ネットワークを活用した新たな市場創出
- 健康志向の高まりを背景とした製品・サービス需要の拡大によるブランド価値および収益の向上

重要課題へのアプローチ

スポーツの振興およびスポーツに関わる人の増大を目的に、「するスポーツ」とともに「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」にも応えるための「機会」・「場」・「サービス」を提供し、地域の活性化につながる「歓び、感動、夢」を創出していきます。

主要な取り組み

「スポーツの持つ多面的な価値への貢献」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

スポーツを通じた心身の健康

ミズノらしさ・総合力の発揮

今後に向けて

多様な人たちが世代・性別・障がいの有無などの違いを超えて、運動やスポーツを一緒に楽しめる製品・サービスの研究・開発を進めていきます。

スポーツを通じた心身の健康

インパクト

健康経営プログラム提供企業数

350社

高齢者プログラム参加者数

60,685人

基本的な考え方

私たちを取り巻く生活環境は、日々著しく変化しています。情報化社会の進展やさまざまな作業の自動化により利便性が向上するとともに、労働形態の変化なども加わり便利で快適な生活が実現しました。一方、運動不足や人と人との交流の減少といった課題も生まれ、社会の健全な発展に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

ミズノは、より多くの人々がスポーツに親しみ、心身の健康を育める社会の実現を目指しています。誰もが気軽に運動を取り入れられるサービスの提供を通じて、健康的で充実したライフスタイルを支援し、サステナブルな社会づくりに貢献していきます。

企業の健康経営に寄与するプログラムの提案

日々忙しく運動の時間が取れない社会人や、運動に無関心な方に向けて、さまざまなアプローチ手法を用いたイベントやセミナーを企画し、企業などに提案することで健康経営をサポートしています。

例えば、日常の何気ない動作や時間を簡単な運動に変えて、運動不足の解消を目指すプログラム「ながら運動100」を開発し、延べ350社以上の企業でイベントや講習会を実施してきました。

運動はしたいが長続きしない要因は、運動する時間や場所にとらわれたり、特別なことをしなくてはいけないと身構えたりすることが原因になっていると考えられます。運動のために何かをしなくても、実は日常生活の中に多くの運動が隠れているのではないかという発想から生まれたのが「ながら運動100」です。

特別な道具は必要なく、スポーツジムに通うこともなく、運動のためだけに時間を割くことも不要です。日常生活シーンでできる「ながら運動」をインストラクターと一緒に実施していく形式で紹介しています。

少し意識を変えるだけで、日常生活がそのまま運動になる「ながら運動」はさまざまな企業・団体とコラボレーションも行っています。



企業とのコラボレーション

ながら運動

日常生活における健康増進

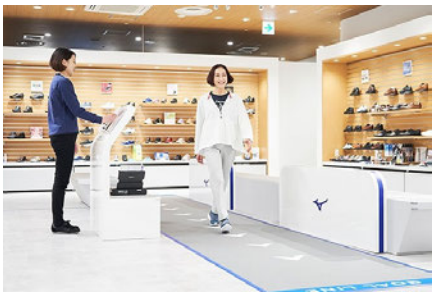
歩き方プログラム

ミズノは、正しい歩き方や姿勢を楽しく学びながら、運動効率を高めることを目的とした歩き方プログラムの講習会を実施しています。参加者は、自分の歩行姿勢や立ち姿を客観的に知ることで、より効果的に身体を動かすコツを身につけることができます。
歩くことは、心と体の健康づくりの基本。私たちはこの講習会を通じて、人々のウェルビーイングの向上と、持続可能なライフスタイルの実現をサポートしています。

「歩く」を科学した『Motion DNA（モーション ディーエヌエー）』

ミズノは、「あなたの人生に、グッドパフォーマンスを。」というPOWERED LIFEのビジョンを具現化するサービスの一つとして、歩行能力・歩行タイプ分析システム『Motion DNA（モーション ディーエヌエー）』を開発しました。『Motion DNA』の活用により、人々の「歩く」をより楽にすることで、「いつまでも自分の足で行きたいところへ行ける人生」のサポートを目指します。
「歩く」ことは生活の基本です。そのため、歩行能力が落ちると、QOL（Quality of Life：生活の質）が低下します。歩行速度と健康寿命には相関関係があり、歩行速度が速い人は健康寿命が長く、歩行速度が遅い人は健康寿命が短いことがわかっています。

より長くイキイキとした生活を送るためには、歩行能力の効果的な維持対策が重要となります。『Motion DNA』は、簡単かつ高精度な専門機器によって歩行能力を測定するとともに、立位姿勢測定システムとアプリケーションにより歩行タイプを推定します。
歩行能力と歩行タイプの違いを知ることで自分に合ったトレーニング方法やサポート商品が明確になり、健康寿命の延伸につなげることができます。



歩行能力測定

Motion DNA測定実績

	2023年度	2024年度	2025年度
施設数（箇所）	81	71	68
参加者数（人）	6,600	9,250	10,900

Motion DNA

リビングで手軽に運動することを習慣化し健康づくりをサポート

健康のために身体を動かしたいが時間が無い」「トレーニング用品は片づけが面倒」などの声に着目し、リビングに置けるトレーニンググッズシリーズとして「ミズノヘルシーインテリア」を2018年から販売しています。“いつもの時間、空間にプラス”をコンセプトに、仕事や家事・育児などで時間がとりにくい人でも、リビングで手軽に運動することを習慣化し健康づくりをサポートします。

新型コロナウイルスの影響で在宅時間が長くなったことを背景に、外部環境に左右されず一人でも手軽にエクササイズを続けることができることから、販売は好調に推移しています。



ミズノヘルシーインテリア

運動機能の維持による健康寿命の延伸

高齢化が進む現代では、スポーツを通じた健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸が期待されています。ミズノは、一人一人の生活の質を保ち豊かな生活を送るため、また、医療費等の社会的負担を軽減するためにも、スポーツを通じたシニア世代の運動機能維持に努め、健康寿命の延伸に貢献していきます。

ミズノ高齢者健康運動プログラム

「ミズノ高齢者健康運動プログラム」とは、「できる」「楽しむ」「つづく」の三つのコンセプトをもとにミズノが独自に開発した高齢者健康運動プログラムです。

LaLaLa Fit

「LaLaLa Fit」は、自分の体重を利用して筋肉や関節など日常生活で体を動かす部位を鍛える運動プログラムです。「膝」「腰」「バランス」「歩行」の４つのカテゴリーからアプローチを行い、年齢に負けないからだづくりを目指します。

LaLaLa Circuit

「LaLaLa Circuit」は、トレーナーのフォローのもと、有酸素運動、筋力、脳力の三つの要素について、個人のレベルに応じて、自分のペースで脳と体を鍛えることができます。しっかりと運動をされたい方にお勧めの運動プログラムです。油圧マシンを使った筋力トレーニングと、有酸素運動であるリズム体操を同時に行うデュアルタスク運動で、体と脳の両方を活性化させます。

LaLaLa Circuit Lite

「LaLaLa Circuit Lite」は、自分の体重を利用した筋力トレーニングと、有酸素運動であるリズム体操を同時に行うデュアルタスク運動で脳の活性化も目指します。運動を楽しく気軽に行いたい方向けの運動プログラムです。

地域との協働

ミズノは、日本各地の自治体で行われている介護予防事業や、特定保健指導該当者向け事業などに積極的に取り組み、運動施設に行くにはハードルが高いと考えているユーザーに対して、運動のきっかけづくりを行っています。教室ではグループワークなどの手法を取り入れ、参加者同士のコミュニティづくりや、運営する指定管理施設での運動継続などを促しています。
2025年度は介護予防事業を全国で 31事業開催し、介護予防教室に参加するだけでなく、教室終了後に参加者自身でも取り組める運動方法や運動メニューの習得ができるように事業展開を心掛けています。

ミズノアクティブリーダーの普及

ミズノは、シニアの運動指導に関わる全ての人を対象に、運動する上での身体に関する基礎知識の習得と運動プログラムを指導・実践するミズノアクティブリーダーを育成するための研修を行っています。これは、ミズノオリジナルのライセンスで、研修を通じて実際に運動を行う際の注意点を学び、シニアに必要な筋力トレーニング、ストレッチ指導ができる技術を習得することができます。
NPO や体育協会・企業などの方々がアクティブリーダーを取得し、施設や地域で指導者として運動指導を行い、活躍の場を広げています。

プログラムの実績

項目	内容	単位	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
ウォーキング講習会	一人でも手軽に取り組める運動であるウォーキングの講習です。正しい姿勢、歩行、リハビリ体操、足指ストレッチなど、運動が苦手な高齢者でも参加できます。	施設数（箇所）	34	37	40	37	39
		参加者（人）	2,984	2,620	2,172	2,472	2,341
LaLaLa Fit	上記LaLaLa Fitをご参照ください。	施設数	33	38	40	41	33
		参加者（人）	14,674	16,437	17,104	22,468	19,906
LaLaLa Circuit	上記LaLaLa Cir-cuitをご参照ください。	施設数	2	5	5	9	9
		参加者（人）	4,672	8,513	8,975	7,801	14,136

※ LaLaLa FitとLaLaLa Circuit Liteを混在した教室展開を行っている施設もあるので、LaLaLa Circuit Liteの実績はLaLaLa Fitに含めています。



ウォーキング講習会



LaLaLa Circuit

行政と共に介護予防リーダーを育成

ミズノは、行政との協働により、市民を対象にした介護予防リーダーの養成を行っています。ミズノアクティブリーダーの要素を取り入れ、研修の実施や、中核施設におけるOJTのほか、育成したリーダーがそれぞれの地域で活躍できるまでの支援も行っています。
羽曳野市との協働事業では、地域の健康づくりサポーターを市内4カ所で110名を育成し、住民主体で行う健康づくりに貢献しています。2025年度は市内4カ所の通いの場で、住民主体により全2,854教室を展開し、総勢21,544名の教室参加者がありました。また、2024年度からは奈良県葛城市でも地域のサポーター育成を開始し、新たな住民主体の通いの場で14名が活躍されています。

高齢者の認知能力向上（低下防止）を目指す運動プログラムの研究

健康に関して高齢者が感じている不安は、転倒によって寝たきりになることと、認知能力低下によって日常生活に支障が出ることの二点があげられます。高齢者の長期寝たきり、入院は医療費や介護費の負担増を招きます。ミズノは、健康寿命を延ばすためには、楽しく運動を続けることが重要だと考えています。リズムに合わせて身体を動かしたり、手と足の協調運動を行ったりすることで認知能力の低下予防につながるとの考えのもと、高齢者を対象とした運動プログラムの研究を行っています。

今後の課題

加齢に伴う筋力の低下などにより身体機能が衰えてきたシニアの方向けに、アスリートの動作解析技術を応用した衣服や用具の製品開発を進めています。
また、運動が苦手な方や外出が困難な方にも対応できるよう、自宅で気軽に取り組めるトレーニングプログラムの開発や、「ツールを使う楽しさ」をきっかけに運動習慣へとつなげるプログラムの提供も推進しています。
さらに、「ミズノアクティブリーダー」の普及を通じて、誰もが運動を楽しめる地域コミュニティづくりを支援し、地域での健康的かつ活動的なライフスタイルの実現を目指しています。
今後は、こうした取り組みに加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用しながら、スポーツを核とした新たなビジネス領域の開拓にもチャレンジしていきます。

ミズノらしさ・総合力の発揮

インパクト

スポーツ施設の運営

1240施設

協働する自治体数

114自治体

基本的な考え方

ミズノは、スポーツが持つ可能性を最大限に生かし、すべての人が心身ともに健康でいきいきと暮らせる社会の実現を目指しています。そのために私たちは、年齢や障がいの有無、居住地などに関係なく、誰もが平等にスポーツを楽しむことができる機会を創出することが重要だと考えています。
しかし、実際にスポーツを「する」ためには、用具や施設だけでなく、チームメイトや指導者といった人的資源も必要です。情報技術の進展により、スポーツ観戦は国内外問わずリアルタイムで楽しめる環境が整いつつありますが、運動する機会に恵まれない人々も依然として多く存在しています。
こうした課題に対し、ミズノはスポーツへのアクセス向上と、地域スポーツ振興への支援活動を展開しています。子どもから高齢者まで幅広い世代に向けた取り組みを通じて、地域社会に根ざした運動機会を創出し、人と人とのつながりやコミュニケーションを育む場を提供しています。
なお、ミズノグループが行うスポーツ振興活動は商業目的で実施することを前提としており、無償でのサービス提供や製品の現物支給は、原則として行っていません。持続可能な形でスポーツを社会に届けることが、私たちの責任であり、強みでもあります。
また、ミズノグループは、海外14の国と地域に事業拠点を構え、グローバルにブランドを展開しています。それぞれの地域においても、地域特性に応じたスポーツ振興活動を継続しており、今後もスポーツの力を通じて、平和で持続可能な社会の実現に貢献していきます。 世界中の人々、そして子どもたちが笑顔になれる未来に向けて、ミズノはこれからも活動の幅を広げていきます。

ゴルフを通じて発揮するミズノの総合力

ミズノは、ゴルフを生涯にわたり楽しめる「生涯スポーツ」と位置づけ、人々の健康維持・増進や豊かなライフスタイルの実現に貢献するとともに、スポーツを通じた社会価値の創出を目指しています。
ジュニア世代への普及・啓発については、「ミズノゴルフアカデミー」を中心に取り組みを展開し、次世代の育成およびゴルフ市場の活性化に取り組んでいます。また、全国約70カ所で展開するミズノゴルフスクールを通じて、年齢や性別を問わず誰もがゴルフに親しめる機会を提供し、参画機会の創出と裾野拡大を図っています。
ゴルフ事業イベント「ミズノオープン」では、野球グラブの製作過程で発生する端材・廃材を活用したアップサイクルワークショップを実施しています。子どもたちがコインケースづくりを体験することで、ものづくりの楽しさや創意工夫する力を育むとともに、環境配慮への意識醸成につなげています。こうした取り組みを通じて、廃棄予定素材の有効活用による資源循環を推進するとともに、スポーツとモノづくりを掛け合わせた新たな体験価値を提供しています。







ミズノオープンでのワークショップ

地域におけるスポーツの振興

ミズノビクトリークリニックの開催

ミズノは、2007年より現役のトップアスリートや、かつて第一線で活躍したOB/OGによる実技指導を行う「ミズノビクトリークリニック」を各地で開催し、スポーツの楽しさを伝えるとともに、地域スポーツの振興に向けた活動を行っています。

クリニック講師には、五輪、世界選手権などをはじめ国内外の競技会で活躍した20競技のアスリート約230人が登録されており、プロの技術や考え方を直接伝授するとともに、参加者間の交流を促進する内容となっています。本プログラムは、地域におけるスポーツの振興に加え、アスリートに新たな活躍の場を提供し、トップスポーツと地域スポーツの融合に寄与するものとなっています。

新型コロナウイルスの影響が続いた2021年度は52回でしたが、規制緩和に伴い、2022年度は110回、2023年度は107回、2024年度は114回の開催と回復傾向にあります。2025年度は150回を開催しました。
2025年度の主な開催競技は、水泳、陸上、バレーボール、空手道、サッカーなどでした。

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
開催数（回）	52	110	107	114	150

地域コミュニティとの共創

■ 自治体などとの協働

地域におけるスポーツは、心身の健康増進だけでなく、住民間のコミュニティづくりにも役立っています。公民学それぞれの知見を結集することで、より地域のニーズに即した効果的な活動が可能になります。ミズノは、地方自治体や地域の大学などとの連携を通じて、地域におけるスポーツ振興を推進しています。

■ スポーツ施設の運営

スポーツを楽しむ機会を創造するためには、地域にスポーツができる「場」があるということも重要です。ミズノは2006年から、全国のスポーツ施設の指定管理事業に参画しています。スポーツ施設の運営管理や、年齢に合わせたプログラムの提供を通じ、地域住民の交流を促進するとともに、地域の一員として、気軽にスポーツに触れ合う機会の創出を支援しています。契約施設は、2026年3月現在で全国169カ所、1,240施設となっています。



年齢に合わせたプログラムの提供



スポーツに触れ合う機会の創出



地域住民の交流を促進

スポーツの楽しさを伝える活動

ミズノでは、「ミスを怒らず、みんなで助け合う」を理念に掲げた学童野球大会「ミズノベースボールドリームカップジュニアトーナメント」を開催しています。

スポーツ界では技量向上のために、時に厳しすぎる指導が子どもたちに行われることもありましたが、この大会を通して、野球というスポーツの楽しさを、純粋により多くの子どもたちに感じてもらいたいと考えています。そのために試合中は、指導者、保護者が子どもたちを怒ることを禁止しています。

また、野球のルールでは、交代で一度退いた選手は再度出場することはできませんが、この大会では1人でも多くの子どもたちが出場機会を得られるよう、一度退いても、再度試合に出場できるルールを設けています。さらに、野球をしたことがない子どもたちでも気軽に参加できるよう、ユニフォームがそろっていなくても参加できるようにしています。用具の準備がないチームには、ミズノから貸し出しも行っています。

2024年には第3回大会が開催され、全国から917チームが参加しました。2025年には第4回大会が開催され、全国から1,145チームが参加しました。今後も本野球大会を継続して開催し、ミズノらしい取り組みで野球の楽しさをより多くの子どもたちに届け続けていきます。



ミズノベースボールドリームカップジュニアトーナメント

野球・ソフトボールは、プレーヤーだけでなく観客にも感動や興奮をもたらすスポーツです。当社は、こうしたスポーツ文化の価値を将来世代につなぐことを重要な使命と捉え、時代の変化に対応しながら、持続可能なスポーツの普及・振興に取り組んでいきます。

野球・ソフトボールが地球にできること

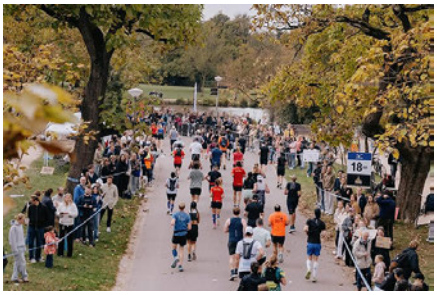
アムステルダムマラソンへの参画

海外でのスポーツ振興活動の代表例として、オランダで開催されるアムステルダムマラソンがあります。本大会は、ミズノが2000年からサポートを継続している国際的なマラソン大会であり、2025年大会では第50回という節目を迎えました。フルマラソン、ハーフマラソン、8kmランなど複数のカテゴリーが設けられており、参加者それぞれが自身のレベルに応じてランニングを楽しむことができるイベントとなっています。

毎年10月第3週の日曜日に開催され、2025年度は、10月19日に開催されました。105を超える国から4.5万人以上のランナーがエントリーし、当社はメインスポンサーとして、会場周辺に2kmにわたるミズノのフラッグを設置しました。また、大会期間中、スタジアムに隣接した販売スタンドを設けて、アパレルやフットウエアの展示・販売を行いました。

参加者の約半数が海外からのランナーで構成されており、国際性の高さに加え、欧州全体から広く参加者が集まるパン・ヨーロッパ型の大会である点が特徴です。こうした多様なランナーの参加を通じて、地域の活性化に寄与するとともに、ミズノブランドのさらなる認知向上と浸透を図っています。今後も当社は大会スポンサーとして継続的に参画していきます。

TCS Amsterdam Marathonの詳細





アムステルダムマラソン2025

当社グループはこのほかにも、欧州、米国、オーストラリア、台湾、韓国、中国など世界各地において、子どもから大人まで、また初心者から上級者まで、幅広い層がスポーツを楽しめる環境づくりを推進しています。ランニング、ラグビー、バドミントンなどの大会協賛やスポーツクリニックの開催・協力を通じて、スポーツの振興と社会への価値提供に取り組んでいます。

スポーツと地域のつながりを通じた社会課題解決型ビジネスの取り組み

北海道上川町との未来共創パートナーシップ協定締結

ミズノは北海道上川町と「未来共創パートナーシップ協定」を締結しました。本協定は、スポーツを通じて地域社会の活性化と持続可能なまちづくりを目指すもので、次の4つの目的を定めています。

1. 子どもの健全育成および教育の推進
2. 世代間・地域間の交流機会の創出
3. 地域の魅力向上および発信
4. 持続可能なまちづくりへの貢献

具体的な取り組みとしては、2024年に第1回を開催したBaseball5※1の大会「Big Snow Cup（ビッグスノーカップ）」の継続開催や、小学校授業へのBaseball5導入などを通じて、スポーツの力による地域活性化のさらなる展開を進めています。
当社は、スポーツには心身の健康の維持だけでなく、世代や地域を超えたコミュニケーションを生み出し、人や地域の可能性を引き出す力があると考えています。
今後も「モノ」だけではなく、プログラムなどの「コト」、運動をする「場」の提供を通じて、地域にスポーツの機会を創出し、社会課題の解決と持続可能な社会の実現に取り組んでいきます。

※1 ゴムボール1個あればどこでも手軽に楽しめる、5人制・5イニング制の野球・ソフトボールの新しい競技で、注目のアーバンスポーツです。



パートナーシップ協定調印式

Baseball5とは？少人数で楽しめる野球の新スタンダード！

「FC岐阜ウェルビーイングプロジェクト」への参画

ミズノは、FC岐阜が推進する地域活性企画「FC岐阜ウェルビーイングプロジェクト」の理念に賛同し、参画しています。本プロジェクトは、市町村やクラブにゆかりのある企業・学校法人など、業種・業界の垣根を越えた多様な組織や団体との連携により展開される取り組みです。

プロジェクトでは、「健康と福祉」「食」「教育」「防災」「娯楽」の5つのテーマに取り組んでおり、ミズノはその中でも主に「健康と福祉」の分野を担っています。具体的には、子どもの運動能力向上と、働き世代や高齢者の健康増進を2本の柱としてコンテンツを提供し、少子高齢化が進む自治体の社会課題解決に向け、FC岐阜と協働しています。

この活動を起点に、FC岐阜とミズノの協力体制をさらに強化し、約193万人の岐阜県民が心身ともに健やかで、安心して暮らし続けられる持続可能な街づくりに貢献していきます。



FC岐阜とパートナー企業が取組むウェルビーイングプロジェクト

今後の課題

スポーツの振興およびスポーツに関わる人の増大を目的に、「するスポーツ」だけでなく、「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」にも応えるための「機会」・「場」・「サービス」を提供し、地域の活性化につながる「歓び、感動、夢」を創出していきます。

また、子どもたちが学校の体育授業やクラブ活動に限らずどこでも気軽に楽しくスポーツを楽しむことができる機会をさらに増やしていくことで、将来のスポーツ人口の維持、増加、さらには健康で豊かな生活が送れる社会の実現に寄与できるよう取り組んでいきます。

また、当社グループは競技スポーツ分野で培った技術や素材も応用し、誰もが楽しく体を動かせる社会、スポーツの力で社会課題の解決に貢献できる世界の実現を目指していきます。

社会課題解決への貢献

主要取り組み指標（KPI）と目標・実績

指標	2025年度実績	2028年度目標	所管部門
• ワーク事業の国内売上高（猛暑対策品・労働災害防止品等）	170.6億円	230億円	ワークビジネス事業部
• コンフォートアパレルの売上高 睡眠用品や高機能インナーの普及で、健康で快適な生活に貢献	23.6億円	40億円	アスレチック事業部
• サステナビリティコンテンツの体験機会の創出	–	2026年度:50校	コトビジネス推進課

重要課題

- スポーツの振興と教育
- ミズノの技術を応用したサステナビリティ課題への貢献

なぜ重要か

ミズノは、競技スポーツ品だけではなく、生活用品やワークビジネスなど多様なシーンに目を向けて事業を展開しています。スポーツ分野で培った強みを生かし、心身の健康増進や、地域の多様なコミュニケーション促進を含めて、社会課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献していきます。

関連するSDGs



ミズノのリスクと機会

情報化社会の進展やさまざまな作業の自動化により利便性が向上し、労働形態の変化なども加わり便利で快適な生活が実現しました。ミズノは、スポーツの定義を競技シーンだけでなく、日常生活シーンにおける身体活動にも拡大し、スポーツの力で社会課題を解決する新たなビジネスの創出の機会と捉え取り組んでいきます。

■ リスク

- 余暇の多様化やデジタル化の進展によるスポーツ需要の分散
- 手軽かつ安全に遊べる外遊びの場の減少

■ 機会

- 独自の運動プログラムの開発・展開・推進
- スポーツ施設利用による地域の多様なコミュニケーション促進
- 社会課題の解決を通じた新規事業機会の創出および事業領域の拡張

重要課題へのアプローチ

当社グループは、子どもの体力・運動能力向上、シニアの健康寿命延伸に注力しています。子どもの体力・運動能力の向上のためには、幼少期から身体を動かすことに慣れ親しむことが重要です。また、高齢化が進む現代では、スポーツを通じた健康寿命の延伸が期待されています。当社グループが開発したオリジナルプログラムを運動好きな子ども、元気な高齢者を増やす地域活性化プログラムとして展開していきます。

主要な取り組み

「社会課題解決への貢献」に関連する取り組みは下記をご参照ください。

スポーツの振興と教育

ミズノの技術を応用したサステナビリティ課題への貢献

今後に向けて

当社グループは競技スポーツ分野で培った技術や素材も応用し、みんなが楽しく体を動かす社会、スポーツの力で社会課題を解決する世界の実現を目指していきます。

Sports & Society

スポーツの振興と教育

インパクト

運動プログラム参加者数

約94.7万人

基本的な考え方

情報化社会の進展や生活環境の変化に伴い、子どもたちの体力・運動能力は世界的に低下傾向にあります。この傾向は、将来の健康状態に影響を及ぼすだけでなく、医療費の増加や労働力の低下といった形で、社会全体の活力を損なう可能性も指摘されています。こうした課題に対しては、教育機関や家庭はもちろん、社会全体での包括的な取り組みが求められています。

日本における子どもの体力・運動能力低下の背景には、次のような要因があると考えられています。

- 手軽に安全に遊べる外遊びの場が減っていること
- 幼少期に身につけるべき基本的な動作（走る・跳ぶ・投げるなど）が十分に発達していないこと
- スポーツに対する苦手意識の形成

ミズノは、こうした課題に対応するため、子どもの体力・運動能力の向上を目的とした独自の運動プログラムを開発し、全国各地の教育機関や地域と連携しながらその展開を進めています。これにより、子どもたちが運動の楽しさを実感し、自ら進んで体を動かす習慣づくりを支援しています。

ミズノ独自の運動プログラムの開発

ヘキサスロン

ミズノは、運動が苦手な子どもでも楽しくスポーツの基本的な動作を習得できる運動遊びメニューと、運動能力測定を組み合わせたプログラム「ヘキサスロン」を開発し、日本全国各地の自治体と協働して小学校をはじめとした各種施設に提供しています。「ヘキサスロン」は、安全性と機能性を考慮したミズノオリジナルの用具を用い、各自の運動能力に合わせて「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本動作を習得できるよう構成されています。場所、プログラム、サービスをセットで提供することにより、楽しく、かつ着実に子どもたちの体力・運動能力の向上につなげることが可能となっています。

心と体を育むスポーツスクール「MISPO!」

ミズノは、子どもたちの健やかな身体の発達、自ら考える力、他者と協力する力を育むことを目的に、独自のマルチスポーツプログラム「MISPO!（ミスポ）」を開発し、2024年4月より指定管理施設（東京都3カ所、大阪府1カ所）にて運用を開始しました。

対象は小学校1～3年生で、野球、テニス、卓球、柔道など10種目のスポーツを週替わりで体験します。運動用具はミズノが準備し、認定スタッフ「ミズノプレイリーダー」が子どもたちの自主性や協調性を引き出すサポートを行います。各プログラムの終わりには振り返りを行い、子ども自身の気づきや成長を記録。保護者には、スペシャルデーで「親子参加型MISPO!」の体験や非認知力の調査などを通じてお子さまの成長過程を丁寧に伝えています。



自身で考えたことを自分の言葉で表現する子どもたち



友だちと作戦会議中！

その他

子どもの体力・運動能力の向上のためには、幼少期から身体を動かすことに慣れ親しみ、スポーツへの苦手意識を克服することが重要です。

ミズノは、スポーツに関する知識・経験が豊かなミズノスタッフが講師となり、「ミズノ・スポーツ塾」や「運動会必勝塾」などのプログラムを各地で開催しています。幼少期に身につけておくべき基本的な動きを短期集中で克服し、運動の楽しさを味わってもらうことで、運動が好きな子どもを増やすことを目指しています。

また、親子で一緒に運動を楽しむプログラムを通じて、子どもが運動の楽しさを実感し、前向きな気持ちや運動習慣を育むとともに、親子のコミュニケーション促進と健やかな成長を支援しています。

子どもの体力・運動能力の向上に関するプログラムの実績

項目	内容	項目	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
ヘキサスロン	スポーツの基本的な動作を楽しく習得できるメニューと運動能力測定を組み合わせたプログラム（※数字は国内のみ）	導入数（校）	7	8	23	15	9
		開催数（回）	13	13	23	15	19
		参加者（人）	631	661	1,569	179	537
ミズノ流忍者学校	幼少期の成長に必要な「走る」「跳ぶ」「投げる」などの36の基本動作を盛り込み、忍者の修行に見立てたストーリー型遊び運動プログラム	開催数（回）	24	54	13	57	86
		参加者（人）	487（延べ）	865（延べ）	644	1,203	1,034
ミズノ・スポーツ塾	マット運動・鉄棒・跳び箱などを取り入れた、運動が苦手な子どもたちのためのプログラム	開催数（回）	60	45	41	50	44
		参加者（人）	1,018	455	788	874	690
運動会必勝塾	運動会のリレーやかけっこで1等賞をとるためのレッスン体験型プログラム	開催数（回）	8	5	5	7	6
		参加者（人）	259	215	165	316	186



ヘキサスロン



ミズノ流忍者学校



ミズノ流忍者学校



ミズノ・スポーツ塾



ミズノ・スポーツ塾



運動会必勝塾

ベトナムでのスポーツ振興

「ミズノヘキサスロン運動プログラム」導入普及促進事業

ミズノは、2015年からベトナムで「ミズノヘキサスロン運動プログラム」の普及促進事業に取り組んできました。ベトナムの義務教育期間における体育の授業時間は、先進国に比べ非常に少なく、運動プログラムも画一的で、「走る」「跳ぶ」「投げる」などのスポーツの基本動作の要素が十分に考慮されていないことが課題でした。

2018年9月には、ベトナム教育訓練省との間で、新学習指導要領における「ミズノヘキサスロン」導入に向けた協力合意を締結し、同国小学校1,000校に対してスポーツ用具の提供を行いました。

また、同年10月には導入と定着に関する協力覚書を締結し、モデルケースの創出を各地で推進しました。これを受けて同年12月以降、ベトナム全63省を対象に導入普及活動を展開しました。

小学校教師を対象とした指導員養成ワークショップには、2019年末までに約1,700人が参加し、各校での指導を通じて多くの児童が本プログラムを活用した体育授業を受けてきました。

2020年3月以降は新型コロナウイルス感染拡大の影響により集合型の活動を見合わせましたが、参加教師による各地での授業実践は継続されています。

2022年6月には本事業が評価され、ベトナム国家主席府より特別感謝状が授与されました（2022年6月27日 ミズノ大阪本社にて授与）。

2023年1月時点では、ベトナム全63省のうち200校（公立126校、私立等74校）で課外授業として導入されています。ベトナムには約15,000校の公立小学校が存在することから、当社は教育訓練省とともに義務教育化に向けた検討を進め、2023年10月には両国大臣立会いの下、新たな協力覚書を締結しました。

2023年10月に締結した協力覚書

これらの取り組みを踏まえ、近年は義務教育への本格導入に向けた具体的な活動を進めています。

年度	活動内容
2024年度	ベトナム義務教育への導入に向け、教育訓練省と協力活動を開始。 合計13省（合併前）の体育教員約130名を対象に、ベトナム現地でヘキサスロン研修会を実施。 ※ 2025年7月の行政再編（63省・市→34省・市）後では、参加自治体は9省に相当。
2025年度	「日越ヘキサスロン普及プロジェクト2025年度実施計画協議会」をハノイ市（教育訓練省）にて開催。 教育訓練省より普通教育局局長、体育学博士等が出席し、長期的な協力方針を確認。 また、2024年度の成果評価を実施するとともに、2026年度以降の研修会の方向性について意見交換を実施。

ベトナム国家主席府からの特別感謝状授与



ベトナム国家主席府より特別感謝状を受章

ミズノオリジナルライセンス「ミズノプレイリーダー」の普及

ミズノは、子どもたちがいきいきと遊べるような環境をつくり、子ども同士の主体的な遊びを見守る「ミズノプレイリーダー」の育成に取り組んでいます。子どもに接する機会が多い企業、大学、行政、教育関係者に、プレイリーダーとしての基礎知識と実技を身につけていただき、運動遊びの基本的な内容を研修する活動を実施しています。この研修活動を社内外に普及させており、現時点で全国各地に約 1,200人のミズノプレイリーダーの輪が広がっています。子どもたちと全力で向き合い、子どもたちの信頼を得て、いざという時は全力で守ります。





ミズノプレイリーダー

ミズノプレイリーダーライセンス取得者数

（人）

	社内	社外	総数
1級	4	0	4
2級	32	10	42
3級	317	1,172	1,489
合計	353	1,182	1,535

子どもの運動習慣向上を目指す運動遊びプログラムの研究

グローバル研究開発部では、幼稚園の自由遊びにおいて、先生の子どもへの関わりが、子ども同士のコミュニケーションにどのような変化をもたらすかをテーマに研究しています。先生から子どもへの問いかけ、タイミング、更には運動遊びスペースの作り方によってコミュニケーションが変わることがわかりました。研究の成果は、2026年３月に開催された第37回日本発達心理学会で発表しました。

子どもたちの発達を促す運動遊びプログラムの提供

スポーツにおける正確な動作や、日常生活における細かな動作が苦手で、物をよく落とす、ハサミや刃物がうまく扱えないなど生活の中で支障を感じている子どもたちを対象とした運動遊びプログラムを提供しています。このプログラムを通じて、身体の動かし方や巧緻性を改善することで子どもたちの発達を促していきます。

今後の課題

現代の子どもたちには、遊ぶ「空間」「仲間」「時間」の3つの「間」がないといわれています。また、保護者からは「子どもとの遊び方が分からない」という声も耳にします。

ミズノは、子どもがいきいきと遊べるような環境づくりと、それを見守る「ミズノプレイリーダー」の育成を行っています。

プレイリーダーは、おもしろく夢中になれる遊びや運動を提供することで、子どもたちが主体となって子ども同士で遊べるような環境を作っています。このプレイリーダーを広く社内外で普及させ、運動遊びを通じて子どもたちの健全な心と体づくりを支援していきます。

また、今後はプレイリーダーが活躍する「場」も創出していきたいと考えています。そのためには、プレイリーダーが普及する上で今後想定される課題の抽出と、保護者への啓発活動を同時に行い、プレイリーダーの認知をさらに拡大させていく必要があります。プレイリーダーが世の中に広く認知されるよう、運動遊びプログラムやイベントを通じて、より一層の浸透を図っていきます。

ミズノの技術を応用したサステナビリティ課題への貢献

インパクト

ワークビジネス国内売上高
（猛暑対策品・労働災害防止品等を含む）

170.6億円

企業ユニフォーム提供社数

約1,800社

以上※に納品しています。
※ 2019年～2025年の納品実績による企業数

基本的な考え方

ミズノは、競技スポーツ品だけではなく、生活用品やワークビジネスなど多様なシーンに目を向けて事業を展開しています。スポーツ分野での強みを生かし、心身の健康増進や、地域の多様なコミュニケーション促進を含めて、社会課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献していきます。

また、競技スポーツ分野で培った機能や素材を生み出す開発力と、高い品質のモノづくりを実現する技術力などの強みを生かし、多様なイノベーション創出に挑戦しています。今後も、SDGsを含め、社会課題の解決を起点にしたサステナビリティへの貢献を目指していきます。

カーボン技術を応用した研究・開発

ミズノは、これまで人の動きや形状に合わせた「人が中心」の研究開発を進めてきました。この研究に対する軸はこれからも変わらず、SDGsに貢献できる製品やサービスなど新たな価値の創出に向けて研究・開発を行っていきます。モノづくりの企業として“ええもん”を作るだけでなく、全ての研究テーマをSDGsに紐づけ、中長期目標のカーボンニュートラルへの貢献、ひいてはサステナブルな社会の実現に向けて取り組んでいきます。

当社は、カーボン技術を応用した研究・開発として、リサイクルカーボン技術を利用した製品開発の拡大や、熱可塑性CFRPの研究・開発、ナノフィラーによるCFRP強化の研究などに注力しています。

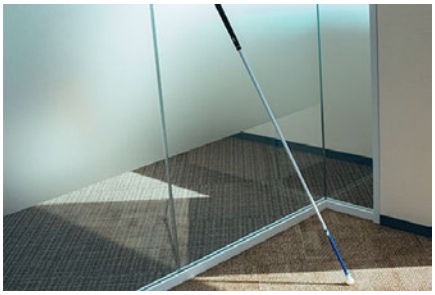
- リサイクルカーボン技術を利用した製品開発
  例えば、足部の疲労を軽減する製品としてシューズのインソール（中敷き）があります。ウォーキング愛好家をはじめ、労働者や高齢者の足元を支えるインソールのバネ材へのリサイクルカーボンの適用を進めたいと考えています。
- 熱可塑性CFRPの研究・開発
  カーボン製義足板バネなどに使われている従来の熱硬化性CFRPと用途は変わりませんが、成形時間が短く、再利用が容易です。サステナブルな社会に貢献できるCFRP製品の実用化を目指しています。
- ナノフィラーによるCFRP強化の研究
  ナノレベルの材料を添加することで、材料自体の性能が向上し、高機能なスポーツ用品の開発が可能になると考えています。

カーボン製白杖「ミズノケーン ST」（快適性・安全性の向上）

当社は、スポーツ用品開発で培ったカーボン設計・加工技術を活用し、軽量性と操作性を追求した直杖タイプの白杖「ミズノケーン ST」を2022年3月に発売しました。この白杖は、持ち手に近い手元側を堅くすることで、地面の凹凸を感じやすい設計を採用しています。また、地面と接地する先端部にはティアドロップ型の石突を採用することで、路面のひっかかりを抑制しています。一般社団法人PLAYERS※1と協力し、ミズノで開発、ミズノ テクニクス株式会社※2で製造しています。

なお、白杖「ミズノケーン ST」は、2022年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞、また「2022年日経優秀製品・サービス賞」で、最優秀賞を受賞しました。

※1「一緒になってワクワクし世の中の問題に立ち向かう」をスローガンとするプロトタイピングチーム
※2 スポーツ用具・カーボン製品の製造をするミズノ株式会社のグループ会社



カーボン製白杖「ミズノケーン ST」

ミズノケーン ST

2022年度グッドデザイン賞を8アイテムが受賞

ミズノ テクニクス株式会社

新スポーツ・サービスの研究・開発

世代・性別・障がいの有無などの違いを超えて一緒に楽しめる新スポーツ・サービスの研究・開発に取り組んでいます。

ミズノは、直営施設、指定管理施設などお客さまが利用される場の運営をしていることから、サービスの研究・開発においてお客さまにアプローチしやすい環境があります。また、これまでのスポーツ用具・用品の研究開発から人を対象とした研究実績を活用し、サービスの研究・開発も行っています。

遊びの要素を取り入れた新たなスポーツの研究・開発

各種協会や大学との協働により新たなスポーツの研究・開発に取り組んでいます。例えば「500歩サッカー」は、歩数を制限するルールとデジタルデバイスの活用によって、運動が苦手な方たちや運動能力に差を感じている方たちも、楽しく体を動かしたり、ゴールを決めたりする体験を味わうことができます。

ミズノは、スポーツ科学とデジタル技術をかけ合わせた研究・開発の推進と、スポーツ施設などの場でスタッフによる実践・運営ができるという強みを生かし、新たなスポーツの研究・開発に引き続き取り組んでいきます。



500歩サッカーのボールとデバイス

スポーツ用品の機能的価値を活用したワークビジネスの展開

ミズノは、ワークビジネス事業を戦略ドメインの一つとして位置付け、さまざまな業種のワーカー向けに、スポーツ用品の機能的価値を活用した企業ユニフォームやシューズなどを展開しています。近年、企業活動において、従業員などの健康管理を経営的な視点で捉え、戦略的に実施する「健康経営」が注目されており、福利厚生の観点から従業員のユニフォームなどの支給品の安全性や快適性を重視する企業が増えています。

当社では、暑さ対策品の「エアリージャケット（ファン付き作業服）」、寒さ対策品の「テックシールドジャケット」など、過酷な労働環境に合わせた提案にも取り組んでいます。また、ペットボトルのリサイクル糸を使用した企業ユニフォームやケミカルリサイクル糸を使用したワークアパレルなどの環境配慮型商品の開発を進めることで、労働生産性向上を目指し、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に貢献しています。



ケミカルリサイクル素材使用作業服



エアリージャケット（ファン付き作業服）



テックシールドジャケット

ワークビジネス事業の経緯

ミズノは、1997年からスポーツ用品開発で培った技術や知見を活用した、別注の企業ユニフォームを企画・販売する専門部門を設置し、これまで1,600社以上に納品しています。近年、企業などからの需要を受け、2016年3月からワークシューズを、2018年2月からワークアパレルを本格的に展開。2019年4月にはワークビジネス事業部を新たに設立し、ワークビジネス強化に取り組んでいます。

さらに2019年4月には、BtoB（Business to Business）強化を目的に、法人営業部をそれまでの約20人体制から約90人体制に増員し、北海道から九州までの全支社に法人営業部員を設置して企業への営業活動を強化しています。

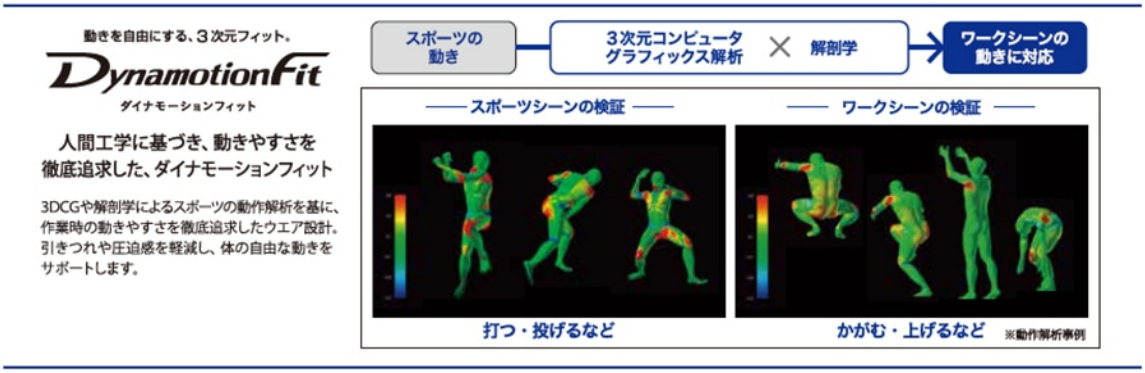
2028年度には、国内売上230億円を目指しています。

ミズノワークアパレルの特長

ワークアパレルには、屋内外における寒暖などの環境変化に合わせて、働く人がより動きやすく、より快適に作業・労働するための機能性が求められます。ミズノワークアパレルは、動きやすさを追求した独自のウエア設計「ダイナモーションフィット」や汗処理に優れた素材「ドライサイエンス」、体から出る水分を吸収して発熱する吸湿発熱素材「ブレスサーモ」などを採用し、働く環境で求められる機能を搭載しています。

■ 動きやすさを追求したウエア設計「ダイナモーションフィット」

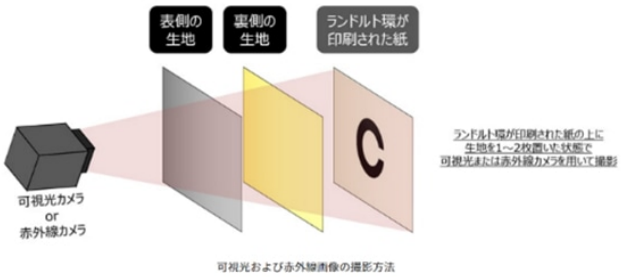
「ダイナモーションフィット」は、人間工学に基づく動作解析により、作業時の動きやすさを追求しています。引きつれや圧迫感を軽減し体の自由な動きをサポートします。



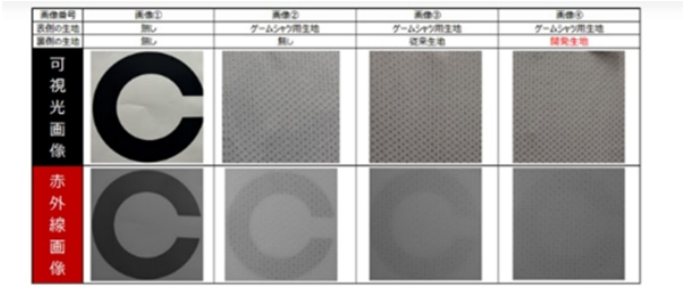
アスリートを盗撮被害から守る赤外線防透け生地を開発

ミズノでは、アスリートの盗撮被害抑制につながる「赤外線防透け」の特長を備えた生地を開発しました。近年、競技会場などにおいて性的な目的で女性アスリートの画像や動画が撮影され、それがインターネットで拡散される被害が各種メディアなどで取り上げられていることが問題になっています。そこで、「アスリートに対する盗撮」の問題解決をテーマとして新規技術開発に取り組み、「赤外線防透け生地」の開発に至りました。この「赤外線防透け生地」は、機能性材料に精通している住友金属鉱山株式会社、複合材料技術に精通している共同印刷株式会社、スポーツを中心とした生地開発・製品設計に精通しているミズノの3社による「共創」で誕生しました。

アスリートを守り、競技に集中できる環境を提供することは、「心・技・体」の「心」をサポートすることにつながるほか、選手ファーストの観点においても大切な取り組みであると考えています。



可視光および赤外線画像の撮影方法



可視光および赤外線画像による透け感の比較図

障がい者スポーツ支援

ミズノは、障がい者用スポーツ用具の開発・提供や、選手・チームのサポートなどを通じて、障がい者が積極的にスポーツを楽しめるような環境づくりにも力を入れています。

スポーツ用義足の開発

ミズノは、福祉機器メーカーである今仙技術研究所と共同で、2016年からカーボン製スポーツ用義足板バネなど陸上用義足の開発に取り組んでいます。多くのスポーツ品に使っているカーボンの設計・加工技術と、アスリートの動作解析などのスポーツテクノロジーを融合させ、今仙技術研究所の技術と組むことで、世界で戦えるスポーツ用義足を開発しました。
2020年9月には、板バネの先端中央部分に孔をあけた形状のスポーツ用義足板バネ「KATANAΣ」（カタナシグマ）を共同で開発しました。このカーボン製板バネは、スパイクピンがある接地部分から上部にかけて空気孔を設けることで、空気抵抗を約31%軽減しています※1。質量は従来品に比べて約15%軽量になり、足の回転のしやすさを表す慣性モーメントも従来品に比べ約10%小さく設計できました※2。
トップ選手向けのラインナップを今後も増やしていくことで、これまで海外製品を使っていた選手への普及促進を図っていきます。


今仙技術研究所・ミズノ共同開発 スポーツ用

※1 空気孔を設けないものとの比較。ミズノ調べ、風洞実験装置による。
風速18.2m/s、義足を振り出す速度が最大となる板バネの位置関係（板バネが垂直より30°前傾した姿勢）で計測。
※2 従来品との比較。ミズノ調べ、慣性モーメント測定器による。
地面から460mm、板バネ取り付け面から前方へ80mmの位置を膝の回転軸とした設定で計測。

エントリー向けのスポーツ用義足

2021年9月には、スポーツのエントリー層に向けたカーボン製板バネ「KATANAα」を共同開発しました。競技用板バネ製作のノウハウを生かし、初めて走る人を対象にした、軽量で扱い易い板バネです。専用のソールを装着することで、トップモデルと同様のコンセプトを持ったバネ特性を実現しています。さらに、日常用義足からの取り換えが容易で、価格も従来の競技モデルと比べて安価となっています。

日本国内における下肢切断者は約6万人※1で、公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンターのアンケートによると、当施設で義足を製作されたユーザーの約3割が「競技用の義足を試してみたい」と回答しています。

今後も、当社は今仙技術研究所と共にスポーツ用義足の研究開発を続け、下肢切断者のスポーツライフを支えていくことを通じて、健康の増進と福祉の向上を推進していきます。

※1 平成18年厚生労働省「身体障害児・者実態調査」より



今仙技術研究所・ミズノ共同開発　「KATANAα」
（カタナアルファ）子ども用（左）と大人用（右）

今後の課題

ミズノは、製品やサービスを生み出すための指針となる「MIZUNO MIRAI VISION（ミズノミライビジョン）」を策定し、Webサイトで公開しています。私たちは、スポーツの定義を「楽しく体を動かすこと」とし、「スポーツで人を幸せにする」という使命に向かい、「みんなが楽しく体を動かす社会。スポーツの力で社会課題を解決する世界。」の実現を目指します。

そのための場として、イノベーションセンター「MIZUNO ENGINE（ミズノエンジン）」を設立し、2022年11月から本格稼働を開始しました。私たちは、「競技」「健康」「環境」「教育」「ワーク」の5つの領域において、スポーツにできることを追求し、スポーツの力による変革を目指します。

人がさらなる高みへ向かうための「集中力」や「モチベーション」の向上には、未だ解明されていないことが多い心の領域のメカニズム解明への挑戦が必要と考えています。私たちが長年大切にし、磨いてきた「人を中心にメカニズムを理解し、目的に合わせて製品・サービスをデザインする」という中核技術をさらに進化させるとともに、社外のパートナー企業との共創も加速させ、心の領域のメカニズム解明につながる研究も加速させていきます。

MIZUNO MIRAI VISION



イノベーションセンター「MIZUNO ENGINE（ミズノエンジン）」